

## 琵琶湖・湖西地域沿岸部における施設の分布様態と経年変化

建築都市デザイン学科 2280120087-0 松井 悠  
(指導教員 及川 清昭)

## 1. はじめに

滋賀県湖西地域琵琶湖沿岸部は、琵琶湖の豊かな環境の恩恵を受け、レジャー施設や別荘地の建設が見られる地域である。さらに近年では、京阪神からの転居による都市的な新興住宅が徐々に増加し、従来よりの農山村的色彩の地域が、両色彩が入り混じった生活模様を呈しつつある。琵琶湖周辺地域の中でも、湖西地域は湖と山地に挟まれた細長い土地の特徴をしており、人々は湖と比較的に密接した生活を送っていることが示唆される。このような琵琶湖沿岸部の土地利用のありかたを把握することは、湖西地域における人々の生活空間を知るうえで重要であると考えられる。本研究では、滋賀県湖西地域琵琶湖沿岸部周辺地域を対称に、施設の分布実態を時系列的に定かにすることを目的とする。

## 2. 調査対象地域と調査方法

## 2.1 調査対象敷地

調査対象地域は、大津市旧志賀町における、喜撰川から大谷川で挟まれた湖岸の水際線から300mの幅を持った带状領域とする。調査対象地域の湖岸の水際線から約100mごとに内陸に幅をとり、3つのエリアに分けたものを水際線から順にa, b, cとする。さらに喜撰川から大谷川までの範囲を主要な河川ごとに7区画に分割したものを喜撰川から順に1, 2, 3, 4, 5, 6, 7とする。これら水際線からとった3つのエリアと河川ごとに区画した7つの区画を組み合わせることで、図1のように21のエリアに分けた範囲を分析対象とする。



図1. エリア区画

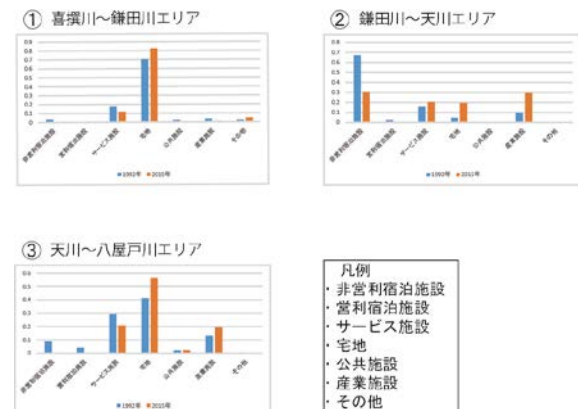
## 2.2 調査方法

調査方法としては、調査対象地域の1992年と2015年のゼンリン住宅地図を用いてデータを作成する。入手した住宅地図の調査対象地域を「非営利宿泊施設」、「営利宿泊施設」、「サービス施設」、「宅地」、「公共施設」、「産業施設」、「その他」の7つに分類する。分類した画像をAdobe Photoshopを用いて、地図のピクセル(pixel)数をもとに敷地面積に対する計算を行うことでエリア毎に施設の分布の割合を求める。得られたデータをもとに1992年と2015年における各エリアの施設分布の分析を行う。さらに、施設分布と湖岸からの距離との関係性について分析する。

## 3. 分析と考察

## 3.1 河川のエリアにおける分析

河川によって定めた各エリアの施設分布を図2に示す。



①喜撰川～鎌田川エリアでは、宅地の割合が高いことが分かる。また1992年から2015年にかけてサービス施設の割合は減少したが、宅地の割合は増加していることが分かる。

②鎌田川～天川エリアでは、非営利宿泊施設の割合が高いことが分かる。また1992年から2015年にかけて非営利宿泊施設の割合は減少し、宅地、産業施設の割合は増加したことが分かる。

③天川～八屋戸川エリアでは、サービス施設、宅地の割合が高いことが分かる。また1992年から2015年にかけてサービス施設の割合は減少し、宅地、産業施設の割合は増加したことが分かる。

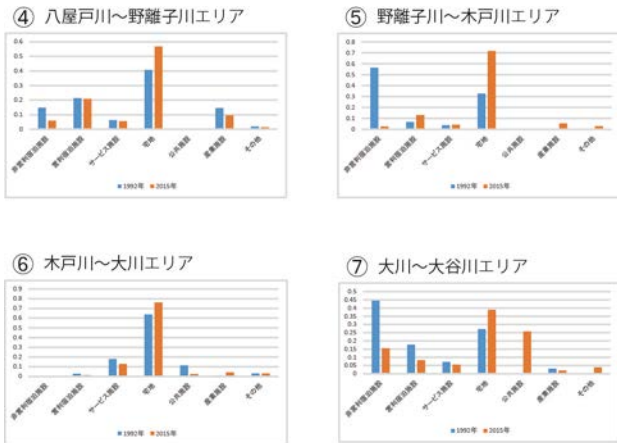


図2. 各エリアの施設分布

- ④八屋戸川～野離子川エリアでは、営利宿泊施設、宅地の割合が高いことが分かる。また1992年から2015年にかけて非営利宿泊施設、産業施設の割合は減少し、宅地の割合は増加していることが分かる。
- ⑤野離子川～木戸川エリアでは、1992年から2015年にかけて非営利宿泊施設の割合は減少し、宅地、宿泊施設の割合は増加していることが分かる。
- ⑥木戸川～大川エリアでは、宅地の割合が高いことが分かる。また1992年から2015年にかけてサービス施設の割合は減少し、宅地の割合は増加したことが分かる。
- ⑦大川～大谷川エリアでは、1992年から、2015年にかけて非営利宿泊施設、営利宿泊施設、産業施設の割合は減少し、宅地、公共施設の割合は増加したことが分かる。

### 3.2 施設の分析

施設の項目ごとに琵琶湖の水際線からの距離との関係を以下に示す。

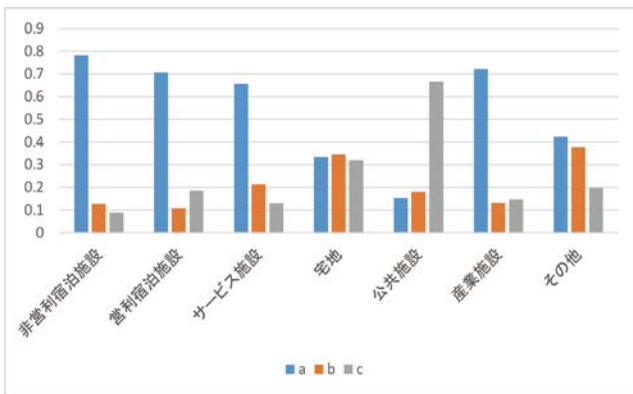


図3. 施設の分布と琵琶湖沿岸部との関係1992年

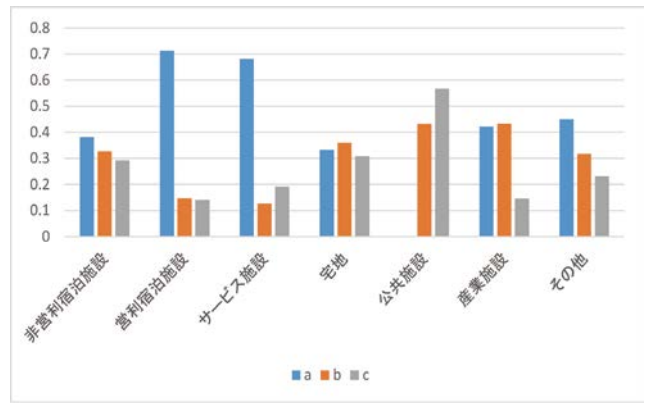


図4. 施設の分布と琵琶湖沿岸部との関係2015年

図3、図4から、非営利宿泊施設、営利宿泊施設、サービス施設の分布割合は1992年、2015年ともに琵琶湖の水際線から100mの範囲で高いことが分かった。しかし非営利宿泊施設については、2015年になるに従い、琵琶湖近くでの割合が減少していることが分かった。宅地の分布は琵琶湖の水際線から100mの範囲から200mの範囲では増加が見られ200mの範囲から300mの範囲では減少が見られた。公共施設については、琵琶湖から離れるにしたがって割合が増加していることが分かった。産業施設については1992年では琵琶湖の水際線から100mの範囲での割合が高かったのに対し2015年になるに従い200mの範囲での割合が高まったのが分かった。その他の施設については1992年、2015年ともに琵琶湖の水際線から遠くなるに従い、分布が減少していることが分かった。

### 4. まとめ

本研究では、ゼンリン住宅地図を用いて滋賀県湖西地域琵琶湖沿岸部周辺地域に発生する施設分布の分析を行った。その結果として、施設の分布と琵琶湖沿岸部との関係性について明らかにすることができた。今後はさらに研究を進め、同じ用途の施設であっても解体と新築が行われていることを考慮し、分析を行う必要がある。

### 参考文献

- 1) 三村浩史、片方信也、小田光康：5-6 びわ湖における水泳場の利用と観光開発の実態：その1. 概要(都市計画) 日本建築学会近畿支部研究報告書. 設計計画・都市計画・住居 (8), 189-192, 1968-05
- 2) 三村浩史、片方信也、小田光康：びわ湖における水泳場の利用と観光開発の実態：その2. 志賀町におけるケーススタディ(都市計画)、日本建築学会近畿支部研究報告書. 設計計画・都市計画・住居 (8), 193-196, 1968-05
- 3) ゼンリン住宅地図滋賀県志賀町 1992年
- 4) ゼンリン住宅地図滋賀県大津市4 2015年
- 5) 国土交通省国土地理 <http://www.gsi.go.jp/index.html>
- 6) Google マップ <https://maps.google.co.jp/>